

※大会誌から落丁した部分です。

第3分科会 これからの育成会 (育成会活動と津久井やまゆり園事件)

一般社団法人宮城県手をつなぐ育成会
業務執行理事兼事務局長 千葉 令子

◇津久井やまゆり園の事件をうけて

平成28年7月26日に発生した津久井やまゆり園の事件は、障害のある方々やその家族、福祉関係者に不安と衝撃を与えました。

この事件を受け、「これまでの育成会活動は何だったのだろう」という思いと「精神的に弱い人が起こした特別な事件だから、自分たちが動揺することはない」という冷静に対処しようとする思いとが交錯しました。早速本部役員で育成会の課題と今後についての座談会を開催し、内容を県の広報誌に掲載し、会員に発信することにしました。

◇事件後に私たちが再認識したこと

- ・インターネット等で同調する意見が出ていること…人を差別する意識がまだまだある。
- ・私たち自身も目を背けるのではなく向き合わなければならない。
- ・本人の生きていてよかったという思いを尊ぶ…親ではなく本人が主体。

◇共生社会に実現のために必要なこと

これまで、私たちは障害のある子のためにできること、療育、教育、就労、生活等々、また様々な法整備など「障がいのある子のために」という思いで活動を続けてきました。しかし今回の事件を受け、障害のある子に社会的な経験、体験を積む機会を積極的に提供し、「こういう人もいるんだ」という理解を広げていくことの大切さ、また親である私たちも地域活動、仕事等をとおして積極的に外に向かって発信することが必要だと改めて痛感しました。

そして、少しずつではあるけれど社会での受け入れ態勢が整うことによって、周りの社会的障害が取り除かれ、一つの障害をクリアしたことになると思います。子どもたちの未来を想像し、楽しむ前向きな環境を作ることがこれからの私たち育成会にとって必要な活動ではないでしょうか？

◇宮城県手をつなぐ育成会の具体的な取り組み

そのようななか全国手をつなぐ育成会連合会会長からの「世代交代を」という宿題があります。各地の育成会で中心的な役割を担っているのは、年配の方々です。わが宮城県も例外ではありません。

「この状況を何とかしなければ…。」「若い世代の困りごと、ニーズを把握しよう。」「親や家族が地域社会に発信していくためには、自分たち自身も成長していかなければ。」

このような思いから、平成24年3月1日宮城県手をつなぐ育成会で、学齢期の保護者を対象とした「教育部会」を立ち上げました。

教育部会は

- ① 学齢期の親の啓発活動、育成会活動の必要性
- ② 教育問題について教育部会を設置することで、様々な角度から育成会として検討し連携機関への要望書提出や働きかけをしていくこと
- ③ 地域育成会への学齢期の問題理解の拡充
- ④ 育成会の高齢化を防ぎ、若い力を入れることで、育成会活動の活性化を図る。

の4つを達成することを目的におき、市町村教育委員会、県教育委員会、特別支援学校等に直接訪問して案内書を配布し、会員を募集しました。現在59人が加入し活動しています。

県育成会が事務局となり、会員の中から会長1名、副会長3名を選任し、またアドバイザーとして元支援学校の校長先生をお願いして、研修会、おしゃべりサロン、施設見学会、親子レクリエーション、広報誌「それいけ！！みやぎっこ」の発行（年3回）、生活支援ノートの発行等タイムリーに役立つ情報を発信しています。今、抱える課題等について部会をとおして考え、問題を共有し子供たち本人、家族等がそれぞれに輝く個性を発揮しながら活躍できる社会に向かっていける活動ができればこの「教育部会」は大成功です。すでに入会している保護者をとおして、なかなか情報の収集が難しい特別支援学級の保護者にも教育部会の輪が広まりつつあります。また、うれしいことに教育部会の会員の方が地域の育成会と繋がりたいと、市町村の育成会に加入するという現象も出てきています。

私自身もこの活動を通して育成会と繋がり多くの保護者の方や専門職の先生、事業所の方等と出会うことができました。

この教育部会をとおして、育成会活動に賛同し地域育成会の仲間となる方々が増加することに期待しています。

◇最後に…

以前に全国手をつなぐ育成会連合会会長が交流誌「手をつなぐ」でこんな風に書かれていました。「わが子、わが家族が、その人らしく輝きながら、人として当たり前で暮らせる社会の実現が育成会活動の目的です」私は本当にそのとおりで改めて納得し、感動しました。育成会は親同士の心の結びつきが原点。顔が見えて生の声で触れ合えて心と心が通い合える交流ができることが何よりの良さだと思います。

また、活動自体も私たち自身への内輪のものだけでなく、障がいのある子を育ててきた当事者である私たちが広く社会に向けての障がい、障がい児（者）への理解、啓発活動を地道に根気強く、まだまだ続けていくことが必要であると考えます。一人ではできないことでも、多くの人と人がつながることで実現することができる、それが「手をつなぐ育成会」だと思います。



第1分科会
「グループホームと
ショートステイ」



第2分科会
「働く」



第3分科会
「これからの育成会」

第4分科会 体験見学会（バス2台）

10月21日（土）13:00～17:00

コース 郡山石筵ふれあい牧場⇒アクアマリンいなわしろカワセミ水族館⇒野口英世記念館

責任者	佐藤重義	(一社)福島県手をつなぐ親の会連合会理事 相馬市手をつなぐ親の会会長
担当者	佐藤恵子	
ボランティア	5名	須賀川市赤十字奉仕団
バス添乗員	鹿郷佳澄	名鉄観光サービス(株)福島支店
本人他参加者	68名	青森23・秋田1・岩手5・山形8・宮城13・福島18
合計	76名	



出発前の説明会
2台のバスに分乗していざ出発

郡山石筵ふれあい牧場
すっかり土砂降りの雨が上り
大満足



アクアマリンいなわしろカワセ
ミ水族館（淡水、生物を展示）

野口英世（千円札の肖像画にも
なっている）記念館前で館長さ
んの説明を受ける

